

●この取扱説明書に機能向上のため、予告なしに変更することがあります。

ハンドワークのシステム・プランナー



本社・東京支店	〒103東京都中央区日本橋箱崎町6-6	TEL (03)669-8111(代)
大阪支店	〒553大阪市福島区玉川1-3-18	TEL (06)444-2031(代)
名古屋支店	〒461名古屋市東区徳川1-11-23	TEL (052)935-8531(代)
福岡支店	〒812福岡市博多区博多駅南4-16-6	TEL (092)411-5416(代)
広島支店	〒733広島市西区南観音6-9-27	TEL (082)291-6331(代)
札幌支店	〒060札幌市中央区北一条東13-1新川ビル内	TEL (011)261-7141(代)
仙台支店	〒983仙台市大和町5-5-25	TEL (022)96-4121(代)
茨城マックス㈱	〒319-11茨城県那珂郡東海村舟石川575-64	TEL (02928)2-3142(代)
三木マックス㈱	〒673-04兵庫県三木市大村261-3	TEL (07948)3-2121(代)
群馬マックス㈱	〒379-22群馬県佐波郡赤堀村大字今井543-2	TEL (0270)62-1123(代)
高松マックス㈱	〒760香川県高松市塩上町3-20-9	TEL (0878)62-1919(代)
長野マックス㈱	〒390-12長野県松本市大字神林砂畑3927-12	TEL (0263)26-4377(代)
三条マックス㈱	〒955新潟県三条市東裏館2-14-28	TEL (02563)4-2112(代)
埼玉マックス㈱	〒330埼玉県大宮市宮原町2-99-5	TEL (0486)51-5341(代)
岡山マックス㈱	〒702岡山県岡山市福富中1-6-14	TEL (0862)64-9581(代)
松山マックス㈱	〒790愛媛県松山市保免町798-2	TEL (0899)73-6123(代)
静岡マックス㈱	〒422静岡県静岡市敷地1-3-26	TEL (0542)37-6116(代)
金沢マックス㈱	〒921石川県金沢市森戸2-15	TEL (0762)40-1871(代)
千葉マックス㈱	〒281千葉県千葉市長沼原町683	TEL (0472)57-1331(代)
岐阜マックス㈱	〒500岐阜県岐阜市北一色4-3-5	TEL (0582)47-6121(代)
横浜マックス㈱	〒241神奈川県横浜市旭区さちが丘7-6	TEL (045)364-5661(代)
盛岡マックス㈱	〒020岩手県盛岡市下太田神45-1	TEL (0196)58-1131(代)
京滋マックス㈱	〒607京都府京都市山科区西野樋川町50	TEL (075)581-3781(代)
神戸マックス㈱	〒652兵庫県神戸市兵庫区芦原通4-1-29	TEL (078)652-2676(代)
㈱マックス東京S.S.	〒104東京都中央区新川2-2-6	TEL (03)552-8365
㈱マックス大阪S.S.	〒543大阪府大阪市天王寺区上汐3-7-15	TEL (06)772-3960
㈱マックス名古屋S.S.	〒461愛知県名古屋市中区徳川1-11-23	TEL (052)935-8210
㈱マックス福岡S.S.	〒812福岡県福岡市博多区博多駅南4-16-4	TEL (092)451-6430
㈱マックス広島S.S.	〒733広島県広島市西区南観音6-9-27	TEL (0822)91-5670
㈱マックス仙台S.S.	〒983宮城県仙台市大和町5-4-25	TEL (0222)57-0778
㈱マックス札幌S.S.	〒060札幌市中央区北一条東13-1新川ビル	TEL (011)231-6487

●S.S.はサービスステーションです。

マックスエアコンプレッサ

AK-830PE[5]・[6]

コンプレッサー

取扱説明書



MAX®

G9011

★いつでも取り出せすように、便利な所に保管しておいてください。

このたびはマックスエアコンプレッサをお買上げいただきまして誠にありがとうございます。あなたの片腕としていつまでも調子よくご使用いただき、最大の効果をあげられるためにも是非この取扱説明書をお読みいただき、説明書どうりのお取扱いをお願いいたします。

現品の確認

エアコンプレッサが到着しましたら、下記の確認を行ってください。

- 1) ご注文の商品ですか？（50Hz用・60Hz用はパッケージとネームプレートに明記してあります）
- 2) 輸送による破損や部品の紛失はないですか？

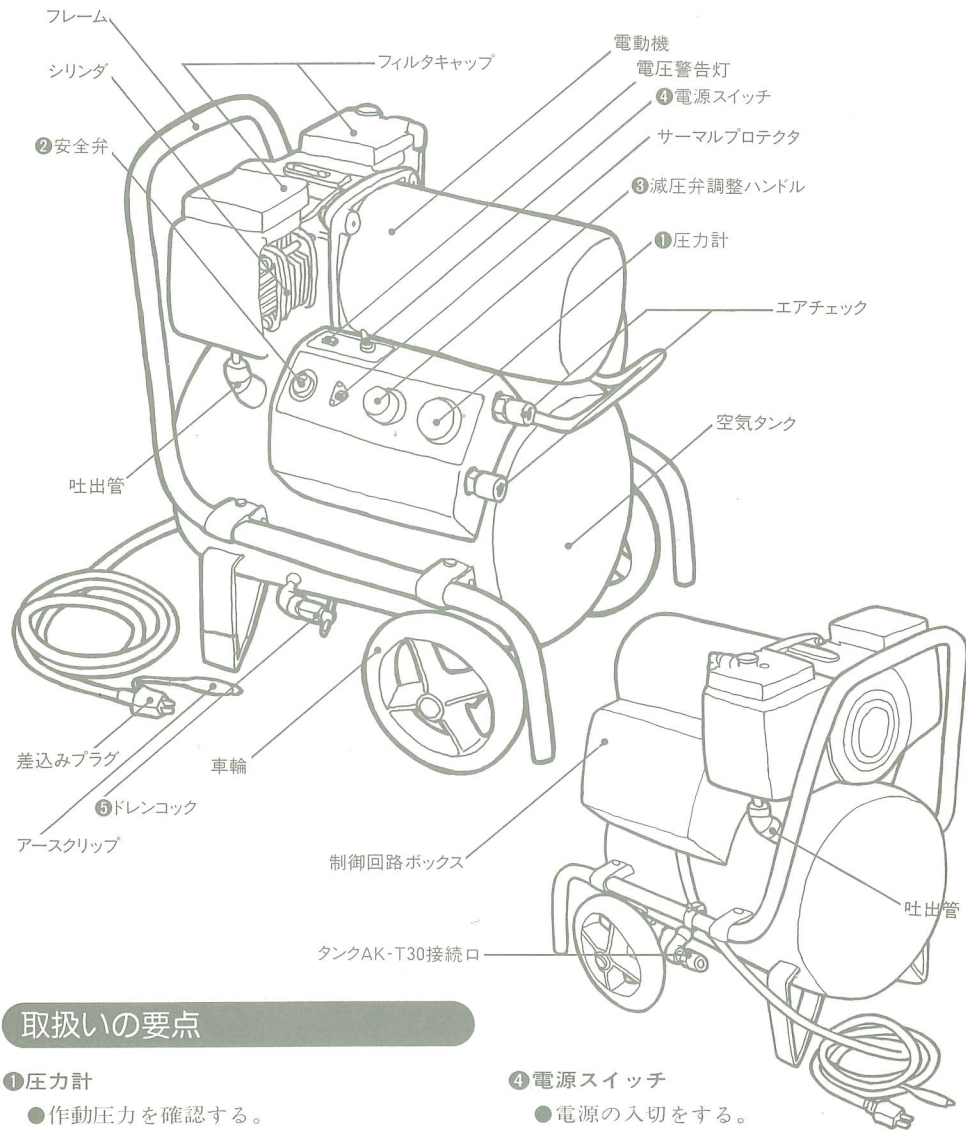
※上記の点で不具合がありましたら、お買求めの販売店へご連絡ください。

※使用電源の周波数が異なる地域でご使用になる場合には、必ず販売店にご相談ください。

1 仕様

名 称	マックスエアコンプレッサ AK-830PE(5)・(6)	
製 品 記 号	AK-830PE(5)・(6)	
駆 動 動 力 (KW(PS))	0.75(1)	
寸 法 (mm)	高さ590×幅435×長さ560	
重 量 (kg)	50	
制 御 方 法	圧カスイッチ	
圧 縮 機 本 体	気筒径(mm)×行程(mm)×気筒数	60×21×2
	ピ ス ト ン 押 除 量 (ℓ/min)	172(50Hz)・206(60Hz)
	最 高 使 用 圧 力 (kg/cm ²)	9
	吐 出 量 (ℓ/min) (7kg/cm ² 時)	80(50Hz)・85(60Hz)
	回 転 数 (r.p.m)	1450(50Hz)・1740(60Hz)
電 動 機	種 別	単相誘導電動機
	容 量 (KW)	0.75
	電 圧 (V)	単相100
	電 流 (A)	13(50Hz)・11(60Hz)
空 気 タ ン ク 容 量 (ℓ)	30	
圧 カ ス イ ッ チ の 作 動 範 囲 (kg/cm ²)	圧カスイッチON 時 8.0~8.4 // OFF時 9.2~9.6	
安 全 弁 の 設 定 圧 力 (kg/cm ²)	10~13	
減 圧 弁 の 圧 力 調 整 範 囲 (kg/cm ²)	0~7	
エ ア 取 出 口	SM30型(2ヶ)	

2 主要部品名称と働き



取扱いの要点

- | | |
|--|--|
| <p>①圧力計</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作動圧力を確認する。 <p>②安全弁</p> <ul style="list-style-type: none"> ●毎日指かけリングを引張る。 <p>③減圧弁調整ハンドル</p> <ul style="list-style-type: none"> ●使用圧力に調整する。 | <p>④電源スイッチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ●電源の入切をする。 <p>⑤ドレンコック</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1日1回作業終了後水を抜く。 |
|--|--|

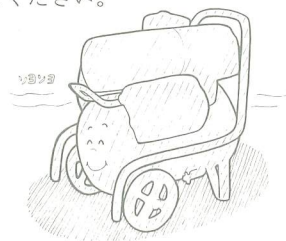
3 毎日次の点を注意してください

★設置場所

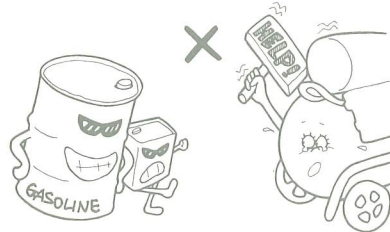
- 振動による移動を防ぐため、平らな場所に設置してください。



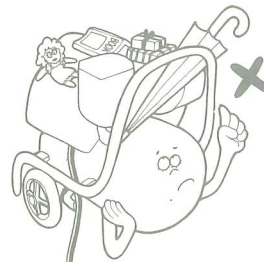
- 湿気・ゴミ・ほこりの少ない風通りのよい日陰に設置してください。



- 付近に火気や、揮発性の可燃物(ガソリン・シンナー等)を置かないでください。



- エアコンプレッサの上に物を置かないでください。



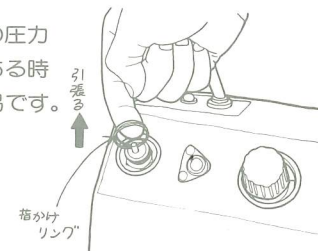
- 雨天での使用はさけてください。



★安全弁の作動具合を調べる

安全弁は他の部分の故障等により圧力が異常に上がったとき、空気タンクの空気を放出して、安全を保つためのものです。正常に働くかどうか毎日必ず指かけリングを引張って作動を確認してください。

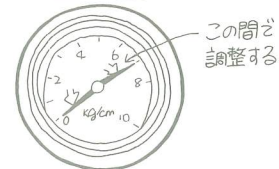
※空気タンクの圧力が5kg/cm²以上ある時に引張ると容易です。



★減圧弁の調整

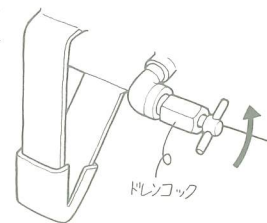
ネジ打機の使用空気圧力は、使用状況により減圧弁を調整して所定の圧力に設定してください。

圧力計



★ドレンコックをゆるめる

作業が終わったらドレンコックをゆるめて水と空気を抜いてください。



4 作動前の点検・確認

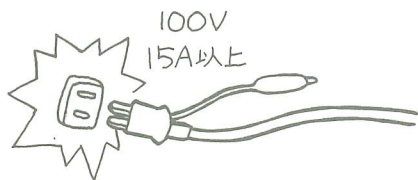
●設置場所がきまりましたら、次の事を点検してください。

1)各部のボルトやネジなどにゆるみがないか。

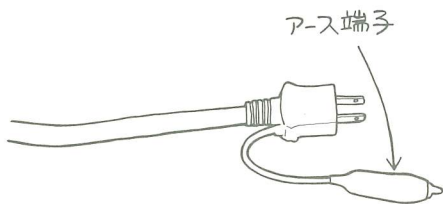


●電源は単相100Vを使用します。

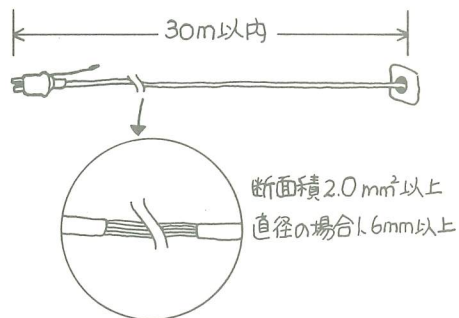
1)仮設の100V電源に接続してください。なお電源容量が15A以上のところで使用してください。



2)差込みプラグの先の配線については、電気設備技術基準や電力会社の規則に従ってください。(アース端子は付属コードのプラグに付いています。)

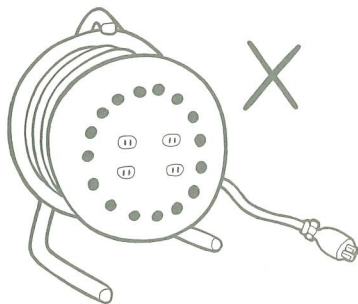


3)配線距離が長かったり、あるいは使用する電線が細い場合は、電圧降下が大きくなり、電動機が回らないことがありますので、電線の断面積が 2.0mm^2 (電流容量15A)以上、又は直径が 1.6mm 以上のものを短くして(30m以内)ご使用ください。電源の電圧が低いときは、さらに短い距離にします。



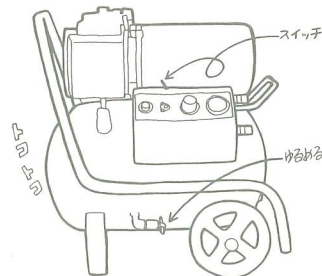
ご注意

コードリールをご使用の場合、コードを巻いたまま使用すると熱を持ち、断線等の原因になりますので、さけてください。

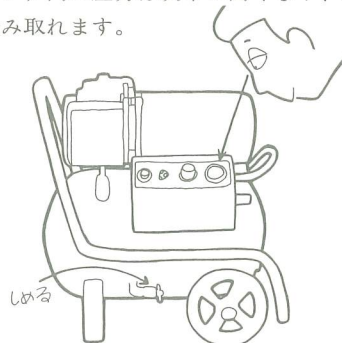


5 試運転 (お買いあげになったとき・長期間使用しなかったときに行ってください。)

1)空気タンク下のドレンコックをゆるめておいて、電源スイッチを入れてください。トコトコと軽快な音を立てて回り始め、ドレンコックから空気が勢いよく出てきます。この無負荷運転を5分以上行ってください。この間に各部の発熱と異常音にご注意ください。



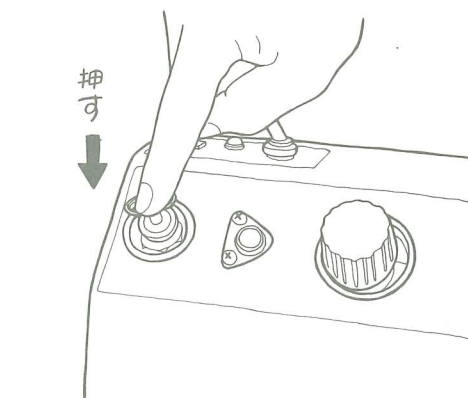
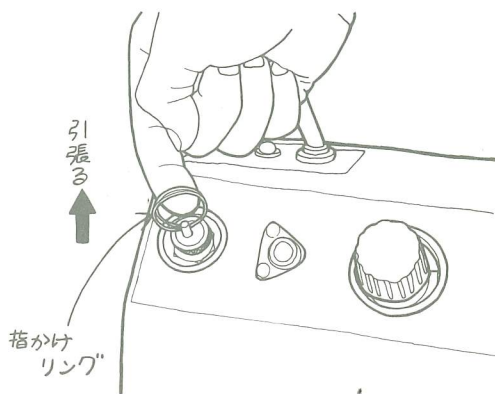
2)次にドレンコックを完全に締めてください。空気タンク内の圧力は次第に高くなり、圧力計で読み取れます。



3)空気タンク内の圧力が $9.2\sim 9.6\text{kg/cm}^2$ の圧力に達すると、圧力スイッチが作動して、空気の圧縮が止り圧力は上昇しません。

4)ドレンコックを少し開き空気を放出します。圧力が設定値($8.0\sim 8.4\text{kg/cm}^2$)まで低下すると、再び圧力スイッチが作動し圧縮を始めます。

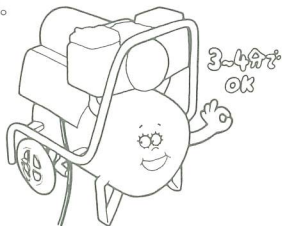
5)安全弁の指かけリングを引張ってみてください。空気が勢い良く小穴から噴き出したら指かけリングの軸を押しさげてください。最高使用圧力付近で指かけリングが軽く上り上記のことが確認されたら安全弁の機能は良好です。



●これで試運転は終わりました。異常がなければエア取出口のエアチャックにエアホースを接続し、その先にネジ打機等を取付けますと、すぐに作業ができます。

6 作動中の点検・確認

- 1) 最高使用圧力までの空気充填時間は大体3~4分程度です。もし圧力がなかなか上がらないときは、空気弁やその他の空気洩れが原因と思われる。



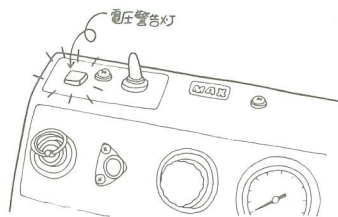
- 2) 作動中異常な状態が発生したら、エアコンプレッサーを止めてすぐお調べください。



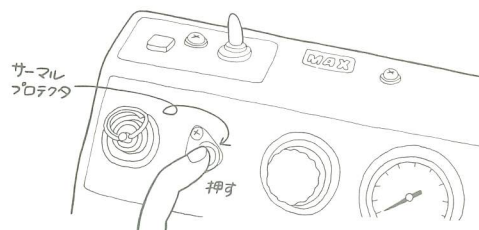
- 3) 電圧が低下するとI C制御により電圧警告灯が点灯し、片肺運転となります。同一電源で他の電動工具の併用、細い電源コードの使用、また、長すぎる延長コードの使用等が原因と考えられますので教えてください。

ご注意

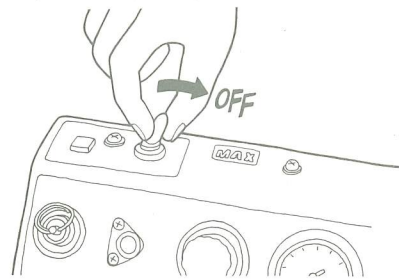
元電源に直接本機を接続した時、電圧警告灯が点灯し片肺運転になることがあります。その場合には15A以上、30m以内のコードリールに接続してください。



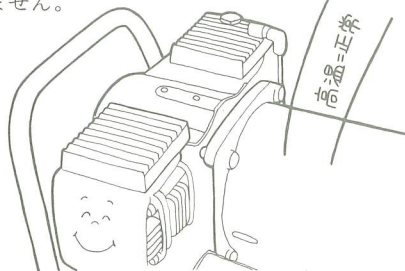
- 4) 元電源の電圧状態が悪いときに同一電源で他の電動工具の併用、細い電源コードの使用、また、長すぎる延長コードの使用等があるとモータが止まります。この際は、3)の使用をさげ、サーマルプロテクタのボタンを押せば再運転可能です。



- 5) 停電のときは電源スイッチを切っておいてください。知らぬ間に電気が入り思わぬ事故をおこすことがあります。

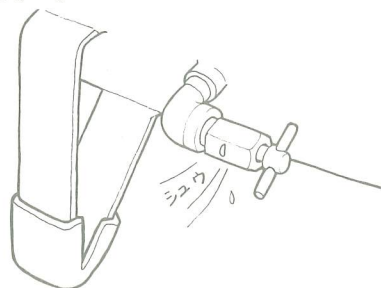


- 6) シリンダ・吐出管、電動機表面などは相当高い温度になりますが、これは空気を圧縮するとき生ずる熱によるものですから心配はありません。



7 作動後の点検・確認

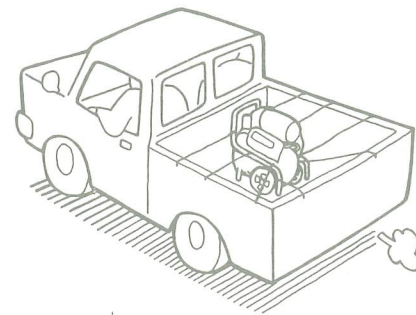
- 1) スイッチを切り、必ず電源よりコードを抜いてください。
2) タンクの下部についているドレンコックをゆるめて、タンク内の水と空気を完全に抜いてください。



ご注意

タンク内に水がたまっただまにしておくと、圧力低下の原因となります。

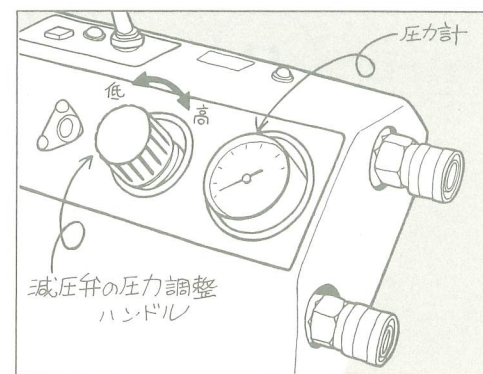
- 3) 自動車での運搬時は、必ずエアコンプレッサーを固定してください。



8 調整

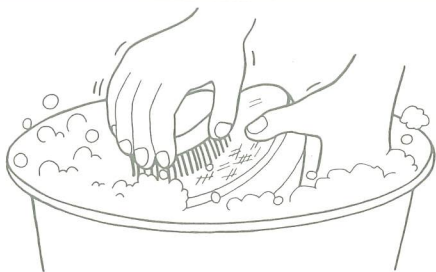
減圧弁(レギュレータ)の調整

- 圧力計の針を見ながら圧力調整ハンドルを廻して調整してください。(右図参照) なお調整範囲は0~7kg/cm²の間です。



9 性能を維持するために

1) エアフィルタは、塵やホコリがたまると空気の吸込みが悪くなり、圧力の上りが遅くなります。月に1度エアダスタなどでホコリを落とし、石けん水で洗ってよく乾かしてください。

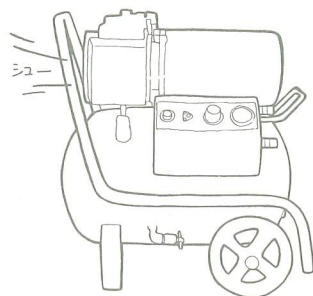


2) シリンダとシリンダヘッドに組付けられている空気弁は、約400時間作動することにより下記の点を確認してください。

- 圧力が上らないか、または最高使用圧力まで上るのに時間がかかりすぎる。(充電時間は約4分)

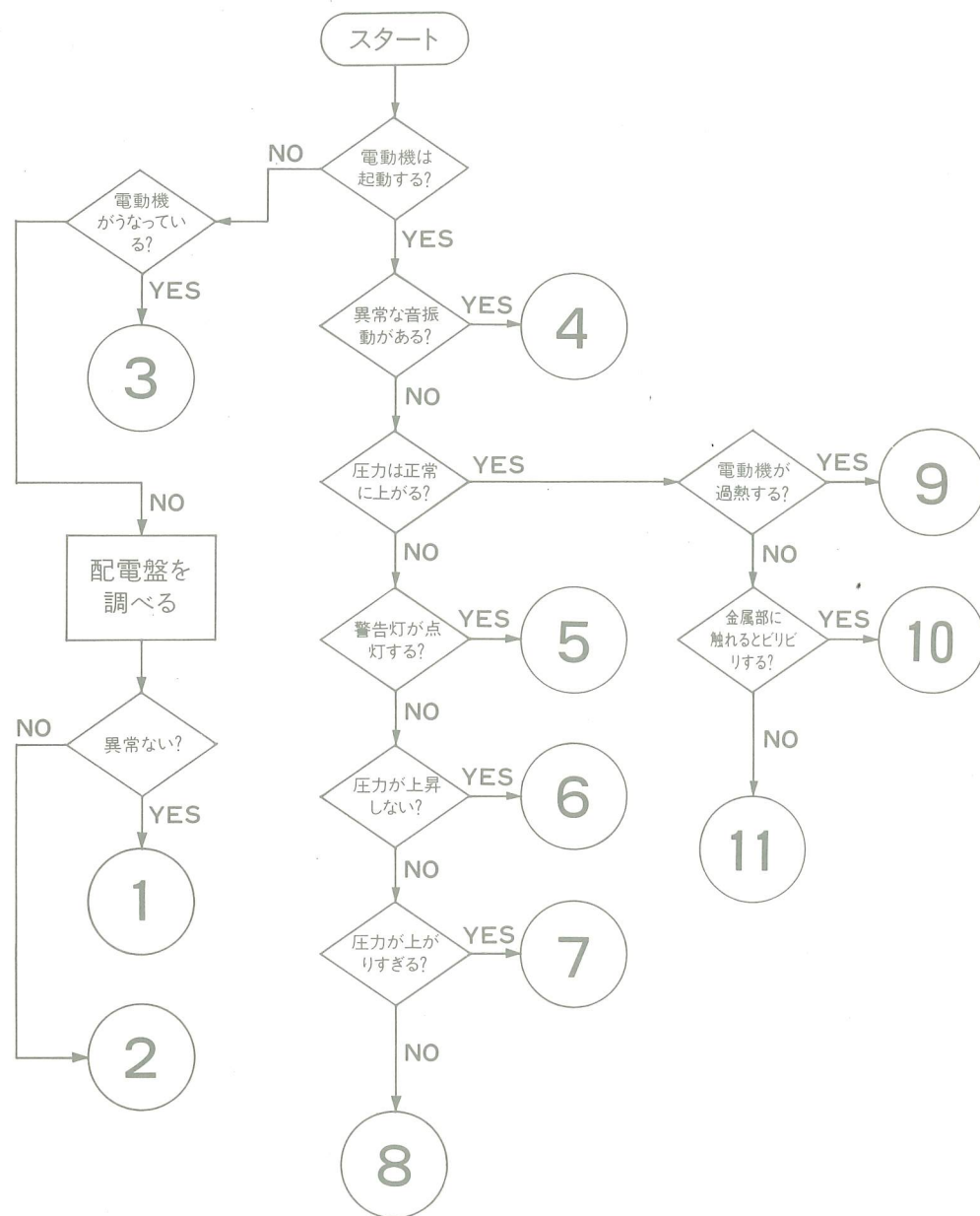
- 圧力スイッチがOFFになってから30分以内に再起動する。

以上のような状態があった場合は、空気弁にエア洩れがありますので、空気弁セットを新品と交換してください。なおパッキンも同時に新品と交換してください。



10 故障の原因とその処置

● 本機が使用中に故障した場合は、下表を参考にしてください。



●本機が使用中に故障した場合には、下表を参照してください。

番号	原因	処置
1	(1) 誤配線	販売店又はサービス・ステーションに相談
	(2) 断線・接触不良	配線の点検
	(3) 電動機の故障	電動機の修理交換
2	(1) 容量不足	15A以上の電源を使用する
	(2) 電圧降下	電力会社又は電気工事店に相談する
	(3) 配線が不適當	販売店又はサービス・ステーションに相談
	(4) 他の電気器具の影響	他の電気器具の使用をやめる
3	(1) 電圧降下	電力会社又は電気工事店に相談する
	(2) 配線が不適當	販売店又はサービス・ステーションに相談
	(3) 他の電気器具の影響	他の電気器具の使用をやめる
	(4) 電動機の故障	電動機の修理交換
	(5) アンロードの作動不良	アンロード部の点検
	(6) 圧縮機の負荷増(かじり等)	圧縮機の分解点検
4	(1) 締結部のゆるみ	締めなおす
	(2) ベアリング部の摩耗	部品交換
	(3) 溶接部の割れ	交換
	(4) 部品の破壊	部品交換
5	(1) 3と同様	3 対応
	(2) 回路基板の故障	交換
6	(1) ネジ部・配管部からの空気洩れ	締めなおす。それでもダメな場合は交換
	(2) シール不良	シール交換
	(3) 空気弁の破損又は作動不良	空気弁交換
	(4) アンロードの復帰不良	アンロード部の点検
7	(1) 圧カスイッチの故障	圧カスイッチ交換
	(2) 誤配線	販売店又はサービス・ステーションに相談
8	(1) 現象を説明して専門のところに聞く	
9	(1) 2と同様	2 対応
	(2) 圧縮機の異常	圧縮機の点検
	(3) 設置場所が悪い	火気の付近や直射日光をさける
10	(1) 雨の中での使用	使用をやめる
	(2) 充電部の接触	本体の配線部の点検
	(3) 電動機の絶縁劣化	電動機の交換
11	(1) 現象を説明して専門のところに聞く	

11 分解見取図及び部品表

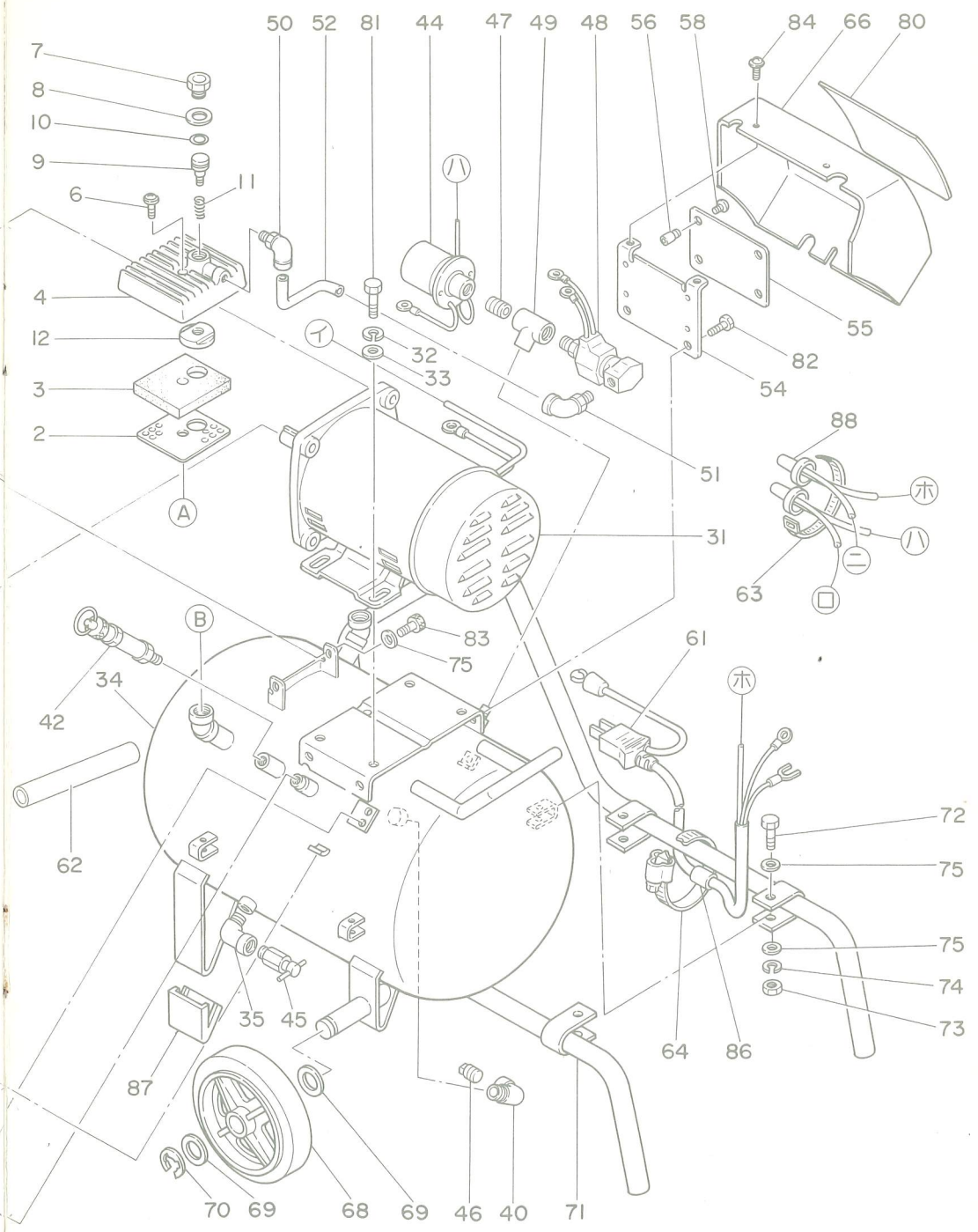
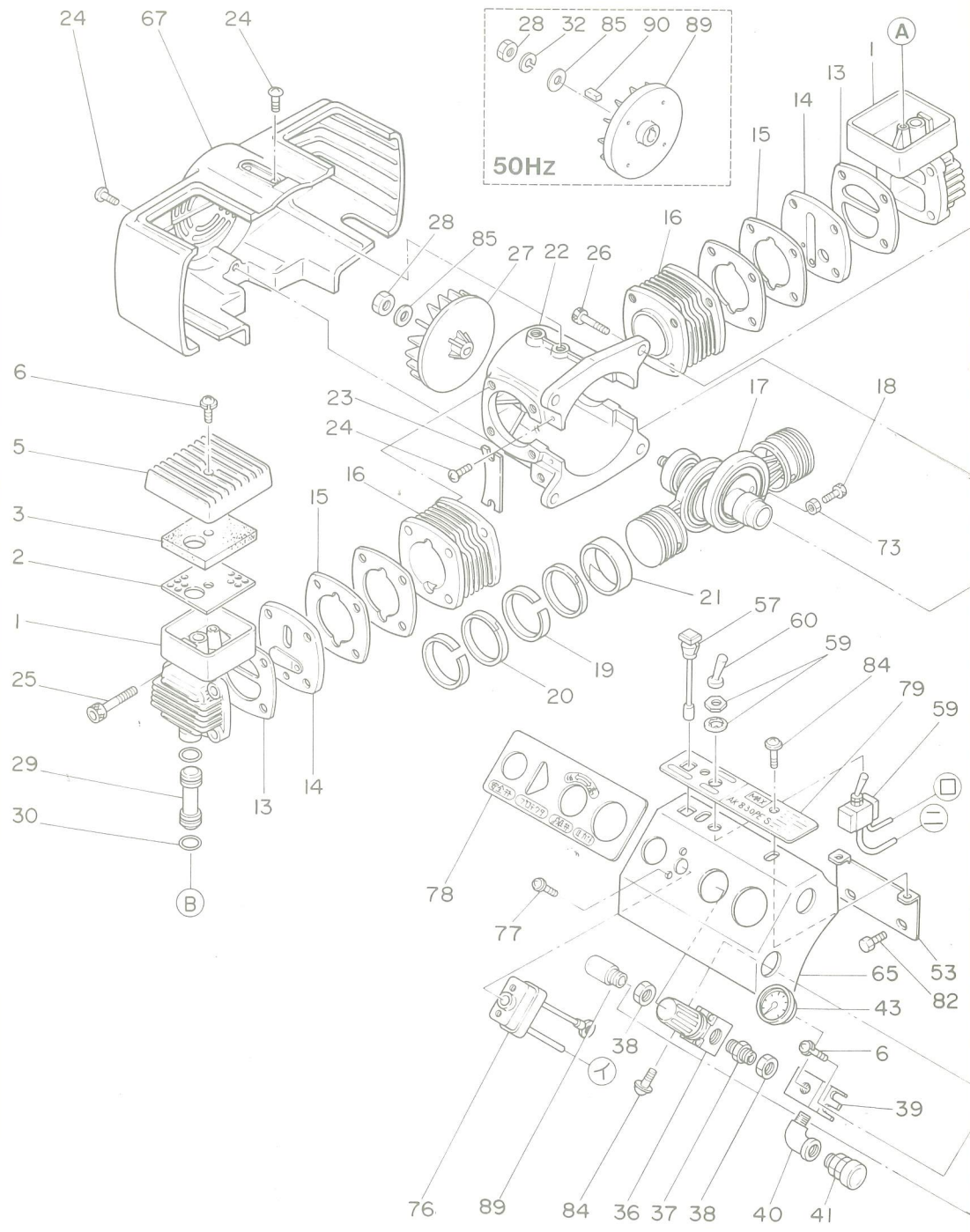
分解・組立の注意

- 1) 分解・組立をする時は必ず電源よりコードを抜き、空気タンク内の圧縮空気を完全に抜いてから行ってください。
- 2) 各部品は精密仕上箇所がありますので傷をつけぬよう充分注意してください。
- 3) 組立の時は部品を清掃し、ゴミなどが付着したまま組立てる事がないようにしてください。
- 4) ボルトやナットは充分に締め付け、パッキンや座金の傷んだものは新品と取り換えて、入れ忘れないようにしてください。

各部品がご入用の時は

修理を依頼されるときや、部品がご入用の際は、お買求めの販売店へご連絡ください。ご参考までに部品名称表と見取図を載せておきますので、部品のご注文などの際にご利用ください。(部品は部品記号でご注文ください。)





12 本機とコンプレッサタンクAK-T30との接続

索引番号	部品記号	部 品 名	索引番号	部品記号	部 品 名
1	AK10301	シリンダヘッド	47	AK10535	バレルニッブル $\frac{1}{4}$ (白)
2	AK10551	遮音板	48	AK10596	電磁弁ユニット
3	AK10552	フィルタエレメント	49	AK10599	ティー $\frac{1}{4}$ (白)
4	AK10553	フィルタキャップA	50	AK10600	L型継手 $\frac{1}{2}$
5	AK10554	フィルタキャップB	51	AK10601	L型継手 $\frac{1}{4}$
6	AA01107	バネ座金付+ナベ小ネジ 5×18	52	AK10602	アンローダパイプ
7	AK10555	アンローダキャップ	53	AK10603	操作ボックス取付板
8	AK10556	アンローダキャップシール	54	AK10604	制御ボックス取付板
9	AK10557	アンローダピストン	55	AK10605	制御回路基板
10	HH11104	リング1種A PI2.5	56	AK10606	基板スペーサ
11	KK23205	圧縮バネ 3205	57	AK10607	L. E. D(ブラケット付)
12	AK10558	アンローダバルブユニット	58	AA21126	+ナベ小ネジ 4×14
13	HH20046	シール 46	59	AK10608	電源スイッチ
14	AK10305	吸吐弁アセンブリ	60	AK10609	丸型防水キャップ
※15	HH20047	シール 47	61	AK10610	電源コード
16	AK10541	シリンダ	62	AK10611	コード保護チューブ(大)
17	AK10561	クランクシャフトアセンブリ	63	AK10371	結束バンド
18	BB40436	六角穴付ボルト 6×14	64	AK10613	ホースクランプ
19	AK10542	ピストンリング押バネ	65	AK10614	操作ボックス
20	AK10543	ピストンリング	66	AK10615	制御ボックス
21	AK10544	ガイドライナ	67	AK10616	デフレクタ
22	AK10567	クランクケース	68	AK10618	車 輪
23	AK10568	ダストプレート	69	EE34103	平座金 20
24	AA21118	+ナベ小ネジ 5×10	70	JJ10110	E.トメワ 15
25	BB40458	六角穴付ボルト 8×90	71	AK10619	支持パイプユニット
26	BB40444	六角穴付ボルト 8×30	72	BB71112	六角ボルト 6×40
27	AK10569	シロッコファン	73	CC41102	六角ナット 1-6
28	CC41105	六角ナット 1-8	74	EE11101	バネ座金 2-6
29	AK10330	吐 出 管	75	EE31112	平座金 1-6
30	HH19601	特○リング4種D 3.5×13.8	76	AK10623	サーマルプロテクタ
31	AK10570	单相誘導電動機	77	AA29103	バネ座金付+ナベ小ネジ 4×8
32	EE11106	バネ座金 2-8	78	AK10624	操作プレート
33	EE32101	平座金 2-10	79	AK10625 AK10626	定格プレート (50Hz) (60Hz)
34	AK10571	空気タンクユニット	80	AK10627	注意プレート
35	AK10345	90°メスオスエルボ $\frac{1}{4}$	81	BB71302	六角ボルト 8×26
36	AK10633	減 圧 弁 PT $\frac{1}{4}$	82	BB71101	六角ボルト 6×12
37	AK10369	特六角ニッブル $\frac{1}{4}$	83	BB40414	六角穴付ボルト 6×16
38	CC49113	特六角ナット PF $\frac{1}{4}$	84	AA02102	平座金付+ナベ小ネジ 5×10
39	AK10591	分 岐 管	85	EE31115	平座金 1-8
40	AK10592	90°メスオスエルボ $\frac{3}{8}$ (白)	86	AK10628	コードプロテクタ
41	TT05003	エアチェック SM30	87	AK10630	ステーカバー
42	AK10338	安全弁アセンブリ	88	YC10102	コネクタ72B
43	AK10734	圧 力 計	89	AK10634	フライホイールファンフーリ
44	AK10594	圧カスイッチ	90	AK10637	平行キー 8×10
45	AK10331	ドレンコックアセンブリ			
46	AK10595	プラグ $\frac{3}{8}$ (白)			

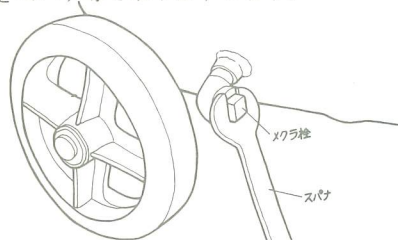
※ 50Hz=4枚・60Hz=6枚

★接続

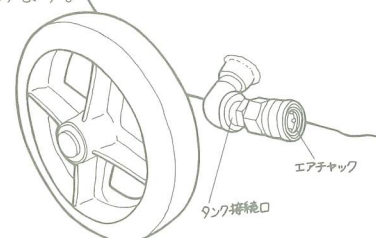
- 1)コンプレッサが停止しているかどうか、また圧力計を見て、タンク内に空気がないことも確認してください。



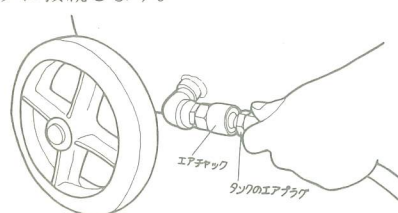
- 2)コンプレッサタンク部のタンク接続用メクラ栓をスパナ等で取りはずします。



- 3)タンクのエアホース先端に付いているエアチャックをはずし、2)で取ったメクラ栓の穴に取付けます。



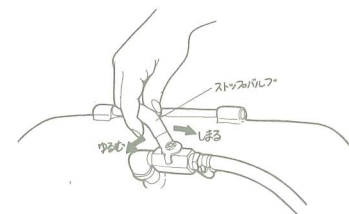
- 4)タンクのエアプラグを3)で取付けたエアチャックに接続します。



ご注意

その際、本体部のエアチャック(2ヶ並んでいるところ)には、絶対に接続しないでください。

- 5)タンクのストップバルブをゆるめます。これで接続作業は完了です。



★切りはなし

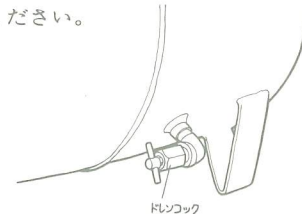
- 1)作業が終了しましたら、まず、ストップバルブを締めます。

- 2)次にエアホースをはずします。

ご注意

ストップバルブを締めないでホースをはずすとタンク内の空気が一度に吹き出し危険ですので必ず、ストップバルブを締めてから行ってください。

- 3)コンプレッサとの切りはなしが終了したら、ドレンコックをゆるめて水と空気を完全に抜いてください。



ご注意

タンク内に水がたまったままにしておくと、能力低下の原因になります。